

1. 事業の概要

平成 24 年度は、フェロー事業を中心に学術談話会、豊田理研スカラー、特定課題研究、刈谷少年発明クラブの各事業をほぼ年初の計画通り実施いたしました。このうち、フェロー事業では、特に「客員フェロー制度」について、その処遇、募集要項などを見直し、5 年振りに新規募集を行い、2 名の採用を決めました。また、学術談話会では、今年度、新たに「豊田理研懇話会」を発足させ、年 3 回企画・開催し、多くの方々に参加いただきました。また、平成 24 年度は、年度を通じて新研究棟で活動する最初の年となりました。理事会・評議員会、各種委員会、セミナー等を新棟で実施することができ、一体感を持った運営ができました。

財政面では、経費節減を進める一方で、運営費の主原資となる保有株式の配当収入が前年に比べ 2 割ほど増額となった結果、経常増減額は依然としてマイナスであるものの、前年度に比べ、その幅はかなり減少しました。なお、豊田関係 12 社からは、厳しい経済状況にもかかわらず、刈谷少年発明クラブに対して前年度と同額のご寄付を頂きました。

以下、各事業および今年度特別に企画・推進した取り組みについて、実施内容を詳細に説明いたします。

1-1 研究事業

1-1-1 フェロー事業

平成 24 年度は新規に常勤フェロー 2 名を採用し、前年度から継続の常勤フェロー 5 名と合わせ、総勢 7 名で研究活動を開始いたしました。

フェローの研究テーマを表 1-1 に示します。

表 1-1 フェローと研究テーマ

	氏名		研究テーマ
1	大野 公一	東北大学名誉教授	ポテンシャル表面解析法の開発と応用
2	元島 栖二	岐阜大学名誉教授	カーボンマイクロコイル(CMC)の成長メカニズムの解明
3	山口 兆	大阪大学名誉教授	化学反応における対称性の破れの理論(4) －光合成マンガン多核錯体の構造と反応性－
4	中島 信昭	大阪市立大学名誉教授	高強度レーザーによる希土類イオンの価数変化
5	薬師 久彌	分子科学研究所名誉教授	ラマン分光法による分子導体の研究 －電荷秩序系を中心にして－
6	(新任) 土井 正男	東京大学名誉教授	ソフトマターの界面レオロジーの研究
7	(新任) 中村 新男	名古屋大学名誉教授	“金属性”ナノチューブの励起子効果の解明 ナノチューブ複合系の光学応答とその機構解明

研究内容および成果の詳細は、「豊田研究報告 No.66」に記載の通りです。

また、(株)豊田中央研究所の協賛を得て、「フェロー研究報告会」を5月と11月の2回に分けて開催し、研究活動の成果を紹介いたしました。5月の報告会では、科学技術振興機構の木村英紀上席フェローに、11月の報告会では、日本学術振興会の安西祐一郎理事長に特別講演をお願いいたしました。発表テーマ、発表者等の詳細を以下に記載いたします。

【第10回フェロー研究報告会】

日時：平成24年5月31日(木)

場所：豊田理化学研究所 オープンコミュニティ

発表テーマ(発表者)：

- ① レーザーによる希土類イオンの価数変化, Yb^{3+} から Yb^{2+} への反応
(中島信昭フェロー)
 - ② 分子の価数変化を伴う相転移のラマン分光による研究 (薬師久彌フェロー)
- 特別講演
- ③ 生物における制御:生命を織る糸
科学技術振興機構研究開発戦略センター (木村英紀上席フェロー)

聴講者：106名(理事/評議員:13、フェロー/元フェロー:17、一般:76)

【第11回フェロー研究報告会】

日時：平成24年11月28日(水)

場所：豊田理化学研究所 オープンコミュニティ

発表テーマ(発表者)：

- ① 原子の集団が生み出す化学構造の理論的自動探索とエネルギー分布の特徴解析
(大野公一フェロー)
 - ② カーボンマイクロコイル(CMC)の成長メカニズムの解明
(元島栖二フェロー)
 - ③ 光合成システムIIにおける
 CaMn_4O_5 クラスターの構造最適化
(山口兆フェロー)
- 特別講演
- ④ 心と脳ー認知科学の挑戦
独立行政法人 日本学術振興会 (安西祐一郎理事長)

聴講者：108名(理事/評議員:14、フェロー/元フェロー:14、一般:80)

1-1-2 名古屋大学「リーディング大学院」への協力

名古屋大学の要請にこたえ、2名の豊田理研フェローが客員教授として、「連携研究所講義(1単位)」を受け持ち、2日間にわたり豊田理研研究棟内にて名古屋大学大学院の学生12名の教育にあたりました。講義の概要を表1-2に示します。

なお、「リーディング大学院プログラム」とは、環境問題の恒久的な解決をもたらす国際的なリーダ科学者養成を目的とする国家プロジェクトです。

表 1-2 リーディング大学院講義概要（自然科学連携講義Ⅲ）

学部・大学院	大学院	科目分類	B類	授業形態	講義
開講学期：12月5日(水)、6日(木) 教室：豊田理化学研究所			単位数：1 担当教員名：大野公一、元島栖二		
<p>(講義の目的とねらい)</p> <p>グリーン自然科学各分野の学問的背景や研究トピックスを、研究所研究者の集中講義を通じてインテンシブに学ぶ。 この講義では特に「化学反応の制御と解析」について学習する。</p>					
<p>(授業内容)</p> <p>(大野公一)</p> <p>化学の世界は原子の離合集散によって演じられている。個々の化学式で表される一定の原子集団から、どのような化合物(異性体)が生成し得るか、それらは互いにどのような反応経路で結ばれているか、さらに、それらはどのように分解して小さな化合物に分かれて行くのか、その逆に小さな化合物からどのようにして個々の化合物を過不足なく組み立てることができるのか。こうした疑問は、化学の基本的な問題であり、これらの問題を解き明かすことは、資源を無駄なく有効に使い、エネルギーを節約し、環境にやさしい物質循環を成し遂げて行くために、非常に重要な課題である。しかしながら、実験によって化学反応のあらゆる可能性をことごとく解き明かして行くことは、多大な労力とコストがかかり、場合によっては危険すらも伴うため、容易なことではない。本講義では、近年進歩の著しい理論化学の発展に基づき、コンピュータによって、化学の基本問題を系統的かつ自動的に解き明かすアプローチと、それによって開かれつつある化学反応解析の最前線について解説する。</p> <p>(元島栖二)</p> <p>化学反応は、反応系に存在する化学種の種類と濃度、反応条件、外部エネルギー場の重畳、反応場の幾何学、触媒など、さまざまな因子により非常に影響され、生成する物質も様々な構造、形態、性質のものが得られる。したがって、目的とする物質を得るには、化学反応をいかに解析し制御するのが重要である。ここではナノテクノロジーのキーマテリアルとして注目されているニューカーボン系新素材の合成法・構造・特性に焦点を絞り解説する。特に、特異的なマイクロ・ナノヘリカル、キラル構造を持つカーボンコイル(CMC)を中心とし、その発見の物語、特異的な化学反応・成長メカニズム・特性などを紹介する。大宇宙の渦巻き、大自然、生命体の根源であるDNAの二重らせん構造、素粒子の運動、電磁波の動き、波動、意識、美・芸術、人間社会の変化など、森羅万象の基本構造として、ヘリカル・螺旋・渦巻き構造がある。最近、これらの幅広いヘリカル・螺旋・渦巻きなどをキーワードとした日本ヘリカルサイエンス学会も設立されたのでこれについても紹介する。</p>					

1-1-3 「学術談話会」の開催

(1) 物性談話会

名古屋大学と共催で、東海地方の物性物理学研究者の啓発を図る場として活動しています。平成24年度は、8回の談話会を開催いたしました。講演題目、講演者の一覧を表1-3に示します。

昭和38年に発足以来、通算の開催回数は、豊田理研創立70周年記念講演会を含めて353回となりました。

表 1-3 平成 24 年度 物性談話会の活動

回	年月日	講演題目	講演者
1	平成 24 年 5 月 21 日 (月)	Quantum vacuum as condensed-matter system : emergent physical laws and dark energy	Aalto 大学 Finland 教授 Grigory E. Volovik 氏
2	平成 24 年 7 月 17 日 (火)	固体表面上でのグラフェン成長のその場観察と物性解明	NTT 物性基礎研究所 部長 日比野浩樹氏
3	平成 24 年 11 月 20 日 (火)	グラフェンの電子輸送特性とデバイス応用	北海道大学量子集積エレクトロニクスセンター 教授 陽完治氏
4	平成 24 年 11 月 30 日 (金)	トポロジカル絶縁体のスピン物性と将来展望	広島大学 准教授 木村昭夫氏
5	平成 24 年 12 月 7 日 (金)	酸化物界面が可能にする量子現象	東京大学 教授 川崎雅司氏
6	平成 25 年 1 月 8 日 (火)	元素間融合を基軸とする新物質創製と機能性材料開発	京都大学物理学研究科 教授 北川宏氏
7	平成 25 年 1 月 10 日 (木)	複素芳香環を基盤とした有機半導体材料の設計と開発	広島大学 教授 瀧宮和男氏
8	平成 25 年 1 月 25 日 (金)	近藤絶縁体とモット絶縁体 : 固体内電子の遍歴・局在問題への視点	東北大学 教授 倉本義夫氏

(2) 分子科学フォーラム

分子科学の発展を希求する幅広い研究者に討論の場を提供する事を目的に、分子科学研究所と共催で開催しており、平成 20 年からは、一般市民にも公開しています。平成 24 年度は 4 回開催いたしました。講演題目、講演者の一覧を表 1-4 に示します。

平成 8 年に発足以来、本フォーラムの通算開催回数は、豊田理研創立 70 周年記念講演会を含めて 97 回となりました。

(3) 豊田理研懇話会

豊田理研の新研究棟が完成したことを記念して、平成 24 年度から新研究棟のオープンコミュニティで難しい話を、易しく講演していただくセミナー「豊田理研懇話会」を企画し、豊田理化学研究所主催、豊田中央研究所協賛で 3 回開催いたしました。豊田理研関係者、豊田中研研究者のみならず、トヨタグループの方々、近隣の大学、研究機関の方々にもご参加いただいで、活発な討議が行われ、開催趣旨を満足するセミナーとすることができました。セミナー演題、講演者の一覧を表 1-5 に示します。

表 1-4 平成 24 年度 分子科学フォーラムの活動

回	年月日	講演題目	講演者
1	平成 24 年 5 月 11 日(金)	「ノーベル化学賞」を受賞して	北海道大学 名誉教授 鈴木章氏
2	平成 24 年 7 月 11 日(水)	宇宙に終わりはあるか	東京大学カブリ数物連携宇宙研究機構 機構長 村山斉氏
3	平成 24 年 10 月 20 日(土)	分子科学研究所市民公開講座 行こう！ 分子探しの旅へ 「マイクロレーザーが拓く、次世代火力発電・自動車エンジン」 「タンパク質の奏でる生体リズム～生物はどのようにして時間をはかるのか？～」 「植物から学べ！人工光合成」	自然科学研究機構 分子科学研究所 准教授 平等拓範氏 教授 秋山修志氏 准教授 正岡重行氏
4	平成 25 年 2 月 8 日(金)	現代の食品工業における技術革新	宮島醤油株式会社 代表取締役社長 宮島清一氏

表 1-5 平成 24 年度 豊田理研懇話会のテーマ

回	年月日	セミナー題目	講演者
1	平成 24 年 4 月 18 日(水)	「超伝導の話」	産業技術総合研究所 特別顧問 近藤淳氏
2	平成 24 年 8 月 28 日(火)	「地球の内部はどうなっているのか？」	海洋研究開発機構 上席研究員 深尾良夫氏
3	平成 24 年 12 月 24 日(月)	「アト秒時空量子エンジニアリング」	分子科学研究所光分子科学研究領域 教授 大森賢治氏

1-2 研究助成事業

1-2-1 豊田理研スカラー

平成 24 年度は、指定 10 大学/11 研究科から応募のあった 22 名について審査委員会で審査を行い、表 1-6 に記載の 19 名を採択しました。採択された研究者には、規定の研究助成金を支給し、研究推進を支援するとともに、助成金贈呈書を授与しました。研究は年初に策定した研究計画にそって実施され、「豊田研究報告 No.66」に記載の成果を収めました。

表 1-6 平成 24 年度豊田理研スカラーの所属と研究テーマ

	氏名	大学	研究科	職位	研究テーマ
1	東藤 正浩	北海道 大学	情報科学研究科 複合情報学	准教授	骨コラーゲン/アパタイト複合構造に基づく くラマンイメージングによる骨機能診断法
2	吉田 哲也		工学研究院 応用物理学部門	准教授	ソーシャルネットワークのコミュニティ構造 に基づいた情報媒介者発見手法の開発
3	坂元 尚哉	東北大学	工学研究科 バイオロボティクス専攻	助教	細胞内力学伝達により引き起こされる細 胞核遺伝子発現メカニズムの解明
4	松井 裕章	東京大学	工学系研究科 機械工学	講師	近赤外表面プラズモンセンシングに向け た酸化物半導体材料の創製
5	金子 弘昌		工学系研究科 機械工学	特任助 教	効率的な材料設計のための戦略的材料 探索手法の開発
6	熊谷 慎也	豊田工業 大学	工学研究科	准教授	3次元 MEMS に向けたレジストスプレー コーティング技術の開発
7	植田 研二	名古屋 大学	工学研究科 物質制御工学	准教授	ダイヤモンド半導体/強磁性体ハイブリ ド構造を用いた新規スピン機能素子の開 発
8	西島 謙一		工学研究科 マイクロ・ナノシステム工学	助教	新規高機能インフルエンザワクチン生産 法の確立
9	寺島 修		工学研究科 マテリアル理工学	助教	MEMS 技術を用いた流体摩擦力計測技 術の開発
10	玉野 真司	名古屋 工業大学	工学研究科 未来材料創成工学	助教	UV 照射による流れの制御手法の開発
11	関 健太		工学研究科 若手研究イノベータ養 成センター	テニュアト ラック助教	長周期地震動の加速度波形再現性向 上を目指した油圧加振機制御技術の開 発
12	太田 貴之	名城大学	理工学部 材料機能工学科	准教授	低コヒーレンス干渉計を用いたプラズ マプロセス中のプラスチック基板の非接 触温度計測技術
13	岩谷 素顕		理工学部 材料機能工学科	准教授	アンチモンを添加した窒化物半導体の p 型伝導性制御
14	菅 章紀		理工学部 化学教室	准教授	高周波デバイス用無機有機複合誘電体 材料の開発
15	弓削 是貴	京都大学	工学研究科 材料化学	助教	新規クラスター展開法に基づく合金材 料設計
16	小宮 成義	大阪大学	基礎工学研究科 物質創成専攻 化学工学領域	助教	3次元渡環型白金錯体の分子集合制御 に基づく高輝度燐光性材料の創成
17	重田 育照		基礎工学研究科 物質創成専攻 機能物質化学領域	准教授	自己再構成順序回路を用いた低消費電 力な脳現象再現専用 VLSI の開発とその 医工学的応用の基礎固め
18	鳥飼 弘幸		基礎工学研究科 物質創成専攻 化学工学領域	准教授	室温動作型エキシトニックトランジスタ を実現する新規酸窒化物半導体材料の創 成
19	板垣 奈穂	九州大学	システム情報科学研究院 集積電子システム」	准教授	室温動作型エキシトニックトランジスタ を実現する新規酸窒化物半導体材料の創 成

1-2-2 特定課題研究

平成 23 年度からの課題である「マイクロスケールの燃焼学」は、北海道大学の中村祐二准教授を研究代表者に、新たに 2 名の若手研究者を加えた計 8 名のコアメンバーの下、全国各地で計 3 回のマイクロフレーム研究会を開催いたしました。研究会は、関連学協会とも連携を図り、共催・協賛として開催することで広く関連学協会の会員にも議論に加わっていただき、初年度にも増して活発な研究会活動を展開しました。2 年間の活動を通じて、マイクロ燃焼学の創成に向けて確実な一歩を進めることができました。詳細は「豊田研究報告 No.66」に記載いたしました。

表 1-7 平成 24 年度「特定課題研究」テーマ（2 年目）

研究代表者		研究テーマ
中村祐二	北海道大学 准教授	マイクロスケールの燃焼学 小さな炎がもたらす超燃焼システムへのブレークスルー

1-3 刈谷少年発明クラブ

平成 24 年度は自由工作への取り組みに重きを置くために、自由工作コースと JM コース (Junior Meister) とを 2 つに分けて募集するのを廃止し、全員が両コースを受講するものとし募集しました。クラブ員総数は 592 名で、平成 23 年度の 706 名と比べ約 110 名の減となりました。その要因は自由工作のみを希望していた中学生、小学 6 年生の減少にあります。

活動内容の詳細は以下の通りです。

1-3-1 クラブ員を対象とした活動

(1) 自由工作コースについて

平成 24 年度はクラブ員全員が年間 2 作品以上を完成することを目標に掲げましたので、完成作品数は 839 点と前年 (387 点) と比べ 2 倍以上となりました。延べ参加者も 2402 名で、前年 (1461 名) と比べ約 1000 名の大幅増となりました。完成作品と、参加者は大幅増となりましたが、2 作品以上の目標を掲げた為、小学低学年による単純なる木工工作的な棚、箱物の作品が多く、また昨年まで自由工作を主体として参加していた中学生、小学 6 年生のクラブ員の減により、作品の質の低下を招き、外部から高い評価を得る作品が少なかったことが反省点であります。平成 25 年度は検図の段階から、工夫のある作品を作るための指導強化を図ります。

(2) JM コースについて

工作技能を育成するために道具の使い方を指導する通常授業の内容で、18 回/年実施し、カリキュラムに沿った作品作りを行いました。平成 25 年度は授業の中で、自由工作に取り入れるテーマを与えて、自由工作に力点を置いた指導に変えていきます。

(3) OM(Odyssey of the Mind)コースについて

OM コースはチーム編成に必要な人数が足りず、世界大会への参加は取りやめました。OM 基礎コースで力を蓄えたメンバーを選抜し平成 25 年 5 月の世界大会を目指しトレーニングに力を入れました。

また平成 23 年度 OM 世界大会で演じた英語劇を 4 月 1 日に刈谷市総合文化センター大ホールで JAXA の元はやぶさプロジェクトマネージャー川口淳一郎氏の講演に先立ち披露し、好評を得たことが認められ刈谷市総合式典において表彰されました。

(4) 表彰実績(主な受賞結果)

<作品展>

石田科学賞:48 名、市村アイデア賞:5 名、全国ジュニア発明賞:1 名
あいち少年少女創意工夫展:3 名

<競技大会>

①全国チャレンジ創造コンテスト:2 チーム 6 名参加:両チーム銅賞

②第 6 回知恵と技こども競技大会において総合優勝を果たすことが出来ました。そして参加 3 チームすべてが入賞しました。

(長期課題+当日課題:総合優勝、当日課題:準優勝、審査員賞)

1-3-2 一般児童を対象とした活動と指導員の研修を兼ねた派遣

発明協会、刈谷市教育委員会、発明クラブ支援企業からの依頼に対して対応しました。

- ① 幼稚園への出前講座 4 箇所
- ② 海陽学園理科工作教室 対象 68 名
- ③ 機械学会東海支部主催「小・中学生のためのハイテクイベント」120 名
- ④ 自動車技術会 120 名
- ⑤ デンソー夢卵での「工作体験教室」
- ⑥ 刈谷市生活創意工夫展での「工作体験教室」

1-4 広報活動

1-4-1 「豊田研究報告」の刊行

研究者の研究業績の蓄積と発表のため、年 1 回刊行しています。平成 24 年度は、第 65 号を発行いたしました。常勤フェロー 6 名、研究嘱託 8 名、豊田理研スカラー 20 名および特定課題研究 1 件による合計 35 編の研究論文、レビューを掲載し、交換雑誌として広く大学、図書館等へ配付いたしました。

1-4-2 刈谷少年発明クラブ機関誌「記録-2012-」の刊行

- (1) 刈谷少年発明クラブの活動内容、行事、表彰などを記した月一回の機関紙(アイデアニュース)を発行しました。
- (2) 年間の活動すべてをまとめた冊子「記録 2012」を発行しました。

1-4-3 ホームページの維持、管理

- (1) 「豊田理化学研究所ホームページ」
財団設立趣意書、沿革、公開情報等をまとめた「財団概要」、事業内容の詳細を記述した「事業紹介」、フェローの研究内容・成果を掲載した「フェロー紹介」、公募に関する情報をお知らせする「募集情報」、「トピックス記事」等をタイムリーに入れ替え、常に新しい情報を提供いたしました。
- (2) 「刈谷少年発明クラブホームページ」
クラブ紹介、トピックス、年間行事計画、活動状況、施設紹介、募集要項等を掲載し、地元を中心に、子供やその保護者に必要な新しい情報の提供を行いました。

2. 処務の概要

2-1 役員・評議員に関する事項

(1) 古川晶章 監事：逝去により平成 24 年 10 月 13 日付けで退任

平成 25 年 3 月 31 日現在の役員は、別表 1.「役員・評議員名簿」を参照。

2-2 職員に関する事項

平成 25 年 3 月 31 日現在の職員は、別表 2.「研究職員名簿」、および別表 3.「職員名簿」を参照。

2-3 役員会に関する事項

表 2-1 理事会、評議員会の開催状況

役員会	開催年月日	議案	結果
第 5 回理事会	平成 24 年 5 月 24 日(木)	1)平成 23 年度 事業報告書承認の件 2)平成 23 年度 決算報告書承認の件 3)任期満了に伴う監事候補選任の件 4)非常勤フェロー制度見直しの件 5)第 3 回評議員会開催の件	承認 承認 承認 可決 可決
第 3 回評議員会	平成 24 年 6 月 12 日(火)	1)平成 23 年度 事業報告の件 2)平成 23 年度 決算報告の件 3)任期満了に伴う監事選任の件	可決 可決 可決
第 6 回理事会 (書面審議)	平成 25 年 2 月 15 日(金)	1)「第 4 回評議員会」招集の件	可決
第 7 回理事会	平成 25 年 3 月 14 日(木)	1)平成 25 年度 事業計画書(案)の件 2)平成 25 年度 収支予算書(案)の件	可決 可決
第 4 回評議員会	平成 25 年 3 月 14 日(木)	報告事項のみ	

2-4 許可・認可・証明等に関する事項

該当事項なし

2-5 契約に関する事項

- (1)共同研究契約書 : 株式会社豊田中央研究所 (平成 24 年 4 月 1 日)
(2)緑地保守に関する契約書 : 加藤グリーン (平成 24 年 4 月 1 日)
(3)建物、建物附属設備及び構築物の維持管理、修繕等業務請負契約書
: テムズ中日株式会社 (平成 24 年 3 月 31 日)

2-6 寄付金に関する事項

(1)奨学寄付金

表 2-2 寄付者と寄付金額

寄 付 者	寄 付 日	寄 付 金 額	目 的
国立大学法人 東京大学	平成 24 年 5 月 30 日	5,000,000 円	学術研究助成のため (該当者:土井正男フェロー)
(土井フェロー退職に伴い、上記寄付金の残金 3,462,909 円を山形大学に移し替え)			
株式会社 ブリヂストン	平成 24 年 5 月 31 日	300,000 円	学術研究助成のため (該当者:大野公一フェロー)
株式会社 ブリヂストン	平成 24 年 5 月 31 日	300,000 円	学術研究助成のため (該当者:土井正男フェロー)
株式会社 デンソー	平成 24 年 10 月 3 日	600,000 円	学術研究助成のため (該当者:大野公一フェロー)
株式会社 豊田自動織機	平成 24 年 10 月 30 日	600,000 円	学術研究助成のため (該当者:大野公一フェロー)

(2) 平成 24 年度「刈谷少年発明クラブ」寄付金

表 2-3 寄付者と寄付金額

寄 付 者	寄 付 日	寄 付 金 額
株式会社デンソー	平成 24 年 5 月 31 日	5,890,000 円
株式会社豊田自動織機	平成 24 年 5 月 31 日	3,610,000 円
アイシン精機株式会社	平成 24 年 5 月 25 日	3,187,000 円
トヨタ車体株式会社	平成 24 年 5 月 31 日	2,036,000 円
株式会社ジェイテクト	平成 24 年 5 月 31 日	836,000 円
トヨタ紡織株式会社	平成 24 年 6 月 20 日	1,532,000 円
愛知製鋼株式会社	平成 24 年 6 月 15 日	514,000 円
トヨタ自動車株式会社	平成 24 年 5 月 28 日	2,685,000 円
豊田通商株式会社	平成 24 年 5 月 31 日	525,000 円
豊田合成株式会社	平成 24 年 6 月 29 日	525,000 円
東和不動産株式会社	平成 24 年 5 月 31 日	440,000 円
トヨタホーム株式会社	平成 24 年 5 月 31 日	220,000 円
合計		22,000,000 円

2-7. 主務官庁の指示に関する事項

該当事項なし

2-8. その他重要事項

該当事項なし

別表 1

役員・評議員名簿

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

(理事の任期:平成 23 年 4 月 1 日～平成 25 年 6 月定時評議員会終結の時)

	氏 名	現 職 等	備考
理事長 (代表理事)	豊田章一郎	トヨタ自動車株式会社 名誉会長	
所長 (業務執行理事)	井口洋夫	国立大学法人東京大学 名誉教授、 自然科学研究機構 分子科学研究所 名誉教授	
常務理事 (業務執行理事)	石川宣勝	株式会社豊田中央研究所 特別顧問	常勤
理 事	安西祐一郎	独立行政法人 日本学術振興会 理事長	
	生嶋 明	学校法人豊田工業大学 名誉教授・顧問	
	石橋善弘	国立大学法人名古屋大学 名誉教授	
	井上博允	国立大学法人東京大学 名誉教授	
	加藤伸一	トヨタ自動車株式会社 顧問	
	茅 幸二	独立行政法人理化学研究所 次世代スーパーコンピュータ開発実施本部 副本部長	
	桑門 聡	刈谷少年発明クラブ 会長	常勤
	榊 裕之	学校法人豊田工業大学 学長	
	豊田章男	トヨタ自動車株式会社 取締役社長	
	豊田幹司郎	アイシン精機株式会社 取締役会長	
	永井伸樹	国立大学法人東北大学 名誉教授	
山口譽起	国立大学法人名古屋工業大学 名誉教授		

(監事の任期:平成 24 年 6 月 12 日～平成 28 年 6 月定時評議員会終結の時)

	氏 名	現 職 等
監 事	石川忠司	株式会社豊田自動織機 相談役
	金原淑郎	トヨタ自動車株式会社 顧問
	好川純一	トヨタ紡織株式会社 特別顧問

(評議員の任期:平成 23 年 4 月 1 日～平成 27 年 6 月定時評議員会終結の時)

	氏 名	現 職 等
評議員	池淵浩介	トヨタ自動車株式会社 顧問・技監
	石丸典生	株式会社デンソー 特別顧問
	伊藤正男	独立行政法人理化学研究所脳科学総合研究センター 特別顧問
	大橋正昭	愛知製鋼株式会社 顧問
	奥田 碩	株式会社国際協力銀行 総裁
	神尾 隆	東和不動産株式会社 相談役
	小林清志	学校法人豊田工業大学 名誉教授
	齋藤明彦	株式会社デンソー 相談役
	齋藤 卓	株式会社豊田中央研究所 代表取締役所長
	清水順三	豊田通商株式会社 取締役会長
	新宮威一	ダイハツ工業株式会社 顧問
	張富士夫	トヨタ自動車株式会社 取締役会長
	豊田周平	トヨタ紡織株式会社 取締役社長
	豊田達郎	トヨタ自動車株式会社 相談役
	豊田鐵郎	株式会社豊田自動織機 取締役社長
	永澤 満	学校法人豊田工業大学 名誉学長
	深谷紘一	株式会社デンソー 取締役会長
	松浦 剛	豊田合成株式会社 相談役
	水嶋敏夫	トヨタ車体株式会社 取締役会長
	森田章義	愛知製鋼株式会社 相談役
安田善次	トヨタ自動車東日本株式会社 相談役	
山内康仁	アイシン精機株式会社 相談役	
横山元彦	株式会社ジェイテクト 取締役会長	

別表 2

研究職員名簿

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

資 格	氏 名	就 任 年 月	備 考
フェロー	大野 公一	平成 21 年 4 月	常 勤
	元島 栖二	平成 21 年 4 月	常 勤
	山口 兆	平成 21 年 4 月	常 勤
	中島 信昭	平成 22 年 4 月	常 勤
	薬師 久彌	平成 23 年 4 月	常 勤
	土井 正男	平成 24 年 4 月	常 勤
	中村 新男	平成 24 年 4 月	常 勤

別表 3

職員名簿

(平成 25 年 3 月 31 日現在)

事 業 所	氏 名	就任年月	担当業務(役職)
本 部	青木 博史	平成 24 年 2 月	事務全般(事務局長)
	兵藤 佑一	平成 24 年 2 月	事務全般(主査)
	鈴木 重子	平成 15 年 11 月	一般事務(リーダー)
	野口 あゆみ	平成 20 年 4 月	一般事務
	石黒 陸雄	平成 17 年 9 月	テクニカルスタッフ(リーダー)
	鈴木 泰彦	平成 18 年 9 月	テクニカルスタッフ
	川合 祐三	平成 21 年 2 月	テクニカルスタッフ
刈谷少年発明クラブ	米倉 浩司	平成 15 年 4 月	講 師
	磯村 義彦	平成 19 年 4 月	講 師・一般事務
	神谷 和憲	平成 20 年 4 月	講 師
	今川 順子	平成 20 年 7 月	一般事務
	犬飼 博樹	平成 23 年 8 月	事務全般